東北生活文化大学
東北生活文化大学短期大学部

広報TSB

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE

第6号
平成26年度 後期

※ブロンズ像「のぞみ」

真実のデータ

東北生活文化大学
生活美術学科長　佐藤 淳一

この原稿を書いている時期は、一月末です。学期末ということもあり学生はレポート、試験の準備、作品の提出に一生懸命の時期です。ここまで学生は様々な体験をしてきました。特に四年生は卒業研究があり、卒業制作でいままでの奮闘の結実を見ます。また社会人となるため就職活動があります。企業とのやり取りの中で、本当の自分を見失わないで、人生の目的を定めるためには「真実のデータ」が必要と考えます。最近ビッグコミック増刊号に本学の相澤郁恵さんの「モディリアーニにお願い」という漫画が連載されています。美術を学ぶ学生の奮闘が描かれています。担任だった私は、彼女の成長を他の先生方と見てきました。まさにあの主人公は彼女ではないでしょうか。作品制作だけでなくオープンキャンパス補助、学友会活動、サークル等に奮闘しました。彼女が一年次終了のときにグループ展で見たすっくりと立つ人の絵は新入生当時から見違えるように成長したなと思わせる実感がありました。そのときの彼女の顔からは、本当の喜びと充実感が感じられました。「全力」「力をふりしぼれ」よく聞かれる言葉です。何事も経験を通しての「真実のデータ」がないと身心が動きません。「真実のデータ」とは、元金沢工業大学教授で画期的創造性開発法としてNM法や工学禅を開発した中山正和氏がその著書「洞察力」（PHP文庫）で述べている言葉です。私が理解した範囲では、澄みきった湖面に映る風景のように脳内にイメージがありのままに浮かぶ状態のようなものだと思います。しっかりとした目的を持ち邪念なく全力で取り組んだ時、人が脳の前頭前野＝心に蓄積してゆくもの。「真実のデータ」とは、「感動経験」とも言い換えることができるかもしれません。生活美術学科は三島学園女子大学時代から今年で五十周年を迎えます。学生の活動は、大学祭の運営、個展、グループ展、公募展、ゼミナール展等の発表活動、各自が全力で取り組んだ成果が発表されていました。中には、私がかつて見たアリゾナの湖に映る銀色の青空を感じさせる作品もありました。家政学科は昨年十二月に課題研究の発表会を行い充実した研究が発表されました。服飾文化専攻は二月のファッションショーに向けて頑張っています。短期大学部では完成年度を迎える食物栄養学専攻が校外実習等忙しい中、大学祭でヘルシーレストランを開催し公開講座などにも積極的に参加しお手伝いをしてくれました。子ども生活専攻は設置以来十周年を迎えます。児童館等で三島レンジャー等様々な活動を活発に行いました。学生がその「真実のデータ」に基づきどんな未来を創造するのか。楽しみな四月が来ます。皆様方には学生の様々な発表活動には、是非足をお運びいただき応援していただきたいと思います。今後とも、三島学園、東北生活文化大学ならびに短期大学部に多大なるご支援をよろしくお願い申し上げます。

大学家政学科 短信

最近半年間の家政学科の様子をお伝えします。

八月八日に健康栄養学専攻二年生の校外研修が行われました。今回は、美里町の（株）鎌田醤油や大崎市松山の（株）一ノ蔵を見学し、食品の調理や加工について実践的に学びました。また、昼食は大崎市岩出山の農家レストラン、四季の里「凛菜・上の家」で郷土料理を味わい、食文化に対する理解を深めました。

九月九日から十二日まで、服飾文化専攻二年生の研修旅行が行われました。これは家政特別講義Ⅱとして行われるもので、今回は昨年に引き続き、倉敷や徳島、神戸などで、アパレル企業や美術館などを見学しました。服飾文化や家政学に関する有意義な研修を行い、専門的な学習をする意欲が高まったことと思います。

後期の授業は九月十九日に始まり、キャンパスはまたにぎわいを取り戻しました。

十月二十五日と二十六日は大学祭が開催され、家政学科では学習・研究の成果を展示しました。また、二十五日に行われたファッションショーでは家政学科の学生たちが大活躍し、ショーを成功へと導きました。十二月十三日には、四年生の課題研究発表会があり、三年生の後期から始めた研究の成果を百周年記念ホールで口頭発表しました。

本稿を書いているいま、学生たちは後期の試験に臨んでいて、それが終わると春休みになります。春休み中も、管理栄養士の国家試験の勉強や学外のファッションショーのリハーサルなど、学生たちの活動は続きます。三年生の就職活動も、今年から三月に本格的にスタートします。

学生たちの卒業、就職、進級に向けて、心を配って参りますので、保護者の皆様のご協力を賜れば幸いに存じます。

大学生活美術学科 短信

生活美術学科は九月初旬から京都研修旅行（二年）、博物館実習旅行（三年）と慌ただしくスタートしました。同月、昨年より延期となっていた人形作家の四谷シモンさんの講演会「四谷シモン・人形譚」が開催され、学外からも多くの方にご来場いただきました。

十月十八日には学内コンクールの審査・授賞式が行われ、最優秀賞に三年次の葛西佑美さんが選ばれました。翌週には大学祭があり、学内コンクールやゼミの展示など、工夫を凝らしたブースが多く並びました。一月には版画ゼミ、合同ゼミ（絵画・壁画・彫刻・デザイン）の展覧会があり、一年間のゼミ活動の成果を発表しました。

二月六日～十一日にはコース制導入後初となる卒業制作展が、せんだいメディアテークにて開催されました。同会場では第二回ＴＳＢアートコンペティションの展示も行われ、特別審査員の工藤稜先生をお招きし、表彰式やライブペイントも実施しました。

地域連携事業では、（株）ハナサクとの花器の商品開発（陶芸ゼミ）を継続しています。また新たに、仙台箪笥協同組合との商品開発プロジェクトを立ち上げ、学生の若い感性をいかした、地域に密着したものづくりにも取り組んでいます。

ボランティア活動としては、小学生を対象として台原児童館でのクリスマスリース制作、仙台市内ギャラリーに於いて凧作りのワークショップ等を開催しました。

今年度は新たな試みとして、卒業生を対象とした「ホームカミングデー」を実施し、仙台ならびに盛岡にて生活美術学科教職員展を開催しました。次年度も様々な活動を通して、生活美術学科の魅力を発信して参りたいと思います。

短大生活文化学科 短信

今年は食物栄養学専攻がスタートして二年目、まもなく初めての栄養士の免許を持った卒業生を出そうとしています。大学の健康栄養学専攻への編入学試験の準備をしている学生もいます。そして、子ども生活専攻は創設十年目の年でした。後期の主な行事を振り返ってみたいと思います。

学科の行事

○十月二十五日、二十六日　大学祭

食物栄養学専攻はヘルシーレストラン、子ども生活専攻はファンタジーランドを行いました。

子ども生活専攻

○十月　幼稚園実習（二年生）

○十二月・二月　保育所基礎実習・施設見学実習・こども園見学実習（一年生）

○一月十九日、二十日　附属ますみ幼稚園の園児を招いての活動（運動遊び）を行いました。

食物栄養学専攻

○六月～十一月　給食管理校外実習

保育所、小学校、自衛隊、特別養護老人ホームに分かれて校外実習（一週間）を行いました。学生だけでなく、初めて実習生を送り出す我々教員も緊張の連続でしたが、無事に終えることができました。

地域貢献活動

○一月六日　公開講座「お正月遊び」

子ども生活専攻創設十周年を記念して開催しました。幼児から小学生までのお子さんと保護者十五組に参加していただきました。干支の由来のお話をペープサート（紙人形劇）で演じたり、凧作り、コマ回しなど、短大で行っている教育の一端を公開し、学生ボランティアと教職員が一緒になって取り組みました。

保護者の方々からは普段はできない遊びを子どもと一緒に楽しむことができたと好評価をいただきました。今までの十年の足跡を振り返るとともに、これからも学生を育てることを通して社会に貢献してゆこうと改めて思った次第です。

ワクワク100ぷろじぇくと

「ワクワク100ぷろじぇくと」は、各学科の学生と教員がタッグを組み、専門分野を生かして“まちに住む人がワクワクできるプロジェクト”を数多く提供することを目標に掲げている活動です。平成24年度から始まったこのプロジェクトもすでに100個以上、世の中に送り出してきました。平成27年度からは、これらを糧にさらに進化したプロジェクトをお届けできればと願っています。

●to Mothers－みちのくー×東北生活文化大学 チャリティアイテム製作

服飾文化専攻

2010年のイベント以来、4年ぶりとなる「to Mothers－みちのくー」とのコラボを実施。今回は、チャリティアイテムとして、アフリカ布と山形の青苧を使ってブレスレットやピアス、イヤリングを製作しました。

●のびのびくらぶ「お母さんとクッキング」

食物栄養学専攻

のびのびくらぶにおいて、「お母さんとクッキング」を開催。じゃがいもウィンナーロール、コンソメ・ア・ラ・プリュノアズ、フルーツジュレをみんなで調理しました。

●第11回「いい日いい汗 栄養まつり」

健康栄養学専攻

毎年恒例の「栄養まつり」。食事バランスチェックや健康相談、各ブースの補助、さらに食育の大切さを来場者にわかりやすく説明する食育ステージイベントなどを行いました。

●2014加茂夏まつり

子ども生活専攻

加茂地区のこのイベントに短大子ども生活専攻の学生16名が参加し、出店のお手伝いやミシマレンジャーのステージ披露をしました。

●HASEKURA デザインプロジェクト

生活美術学科

仙台箪笥協同組合より依頼があり、伝統的仙台箪笥の新たな国内外向けサブブランド商品の開発に協力しました。

「ワクワク100ぷろじぇくと」は、webサイトならびにFacebookページで最新情報がご覧いただけます。

ワクワク100ぷろじぇくとweb
http://www.mishima.ac.jp/info/wakuwaku/

本学Facebook
https://www.facebook.com/mishima.tsb

東北生活文化大学 東北生活文化大学短期大学部

クラスだより

（平成二十六年度後期）

大学服飾文化専攻　1年

大学生活にようやく慣れてきた服飾文化専攻一年次学生たちは、大学での講義・実験・実習、そして課外活動に日々励んでおります。大学祭やファッションショーのスタッフとしてイベント運営に携わった学生が前期よりも多くみられました。そして、二月末に開催されるファッションショーには、クラスの殆どが何らかの形で参加するようです。また、ワクワク二〇〇ぷろじぇくとの一つ「チャリティアクセサリー製作」に関わりたいと考えている学生もおります。学問とそれぞれの興味に応じた活動を通して、様々な経験を積み重ね、今後に生かしてほしいと願っています。

大学服飾文化専攻　2年

二年生は今年度、成人になり、一月にキャンパスで祝賀会がありました。おめでとうございます。さて、二年生も終わろうとしています。一人がインフルエンザに罹ってしまいました。一月は試験やレポート課題など進級の成否が決まる大事な時期です。全員がこのハードルを乗り越えてほしいと願っています。先日、三年生の課題研究発表会がありました。多くの二年生が発表会に出席し、積極的に挙手をして先輩たちに質問をする姿が見られました。まさに成長の証であると感じました。諸先生方のご指導の賜物です。ファッションショーもこの調子でやり遂げてほしいと陰ながら応援しています。

大学服飾文化専攻　3年

三年次後期の授業は、基礎科目から専門性の高い知識を学びます。

特に必修科目の一つである「課題研究Ⅰ」を通して、各々が希望した研究室の指導教官より、自らテーマを設定し、自ら問題を解決する手法を学びました。そして一月に行われた発表会ですが、学生達の姿を見ると、「随分成長したなぁ」と大変感動してしまいました。さて三月から就職活動がスタートします。卒業後の進路についてですが、迷っている学生や目標に向かって準備をしている学生などが見受けられます。一人ひとりがスムーズに活動できるように、そして希望している職種に就けるようにサポートしていければと考えております。

大学服飾文化専攻　4年

いよいよ卒業です！

震災の年に入学して、入学式は四月三十日でした。新入生たちが打ち解ける大きな機会であるオリエンテーションキャンプは、この年はなく、あわただしく授業がスタートしました。しかし、心配する必要はありませんでした。その年の六月十一日の体育祭で実行委員をしたクラスのメンバーの多かったこと！クラスの特徴は「抜群の一体感」です。卒業後、それぞれが自分の道を進みますが、クラスのつながりはずっと続いて行くと思います。保護者の皆様も四年間本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

大学健康栄養学専攻　1年

一年生は、前期の自己達成度を評価し、新たな目標で後期をスタートしました。大学行事の家政特別セミナーでは、管理栄養士として活躍されている卒業生から貴重なお話を聞きました。また、四年生の課題研究発表会を聴講し、将来の夢に向かって少しずつ動き始めています。大学祭、クリスマス行事と学友会活動に意欲的に参加する学生の姿も見られました。二回目の個人面談では、家庭学習の習慣化と生活の様子を確認いたしました。アルバイトを始めた学生が多数おり、帰りに事故に遭わぬよう指導いたしました。

今後も勉強をする習慣を身につけながら、前向きに学生生活を送ってほしいと願っています。

大学健康栄養学専攻　2年

二年生の後期には、給食管理実習で初めて大量調理を行いました。調理以外にも食券の販売や献立説明を行い、食後にはアンケートをとり喫食した感想や意見を伺いました。授業では、様々な課題が出たと思いますが、意欲を持って取り組んでもらいたいと思います。また今年は、成人の歳でもあります。自己責任と思いやりのこころを持って行動していただきたいと願っています。

大学健康栄養学専攻　3年

本年度は、学校、保育所、自衛隊、高齢者施設などで五日間の校外実習を体験しました。実習後に、向山小学校の総合学習の時間に講師として「夢に向かって努力していること」について児童の前で話す機会を頂いた学生もおります。また、十一月には、宮城県栄養士会主催の栄養まつり、三月には、食事療法学会のお手伝いも依頼されており、学外での活動が増えております。

春からはいよいよ四年生です。三月から企業の説明会が始まり、いよいよ就職活動が始まります。活動時期が後ろ倒しになっているので、進路をしっかりと見据えて活動していく必要があります。進路について、ご家庭でも話し合う機会を持って頂けると助かります。

大学健康栄養学専攻　4年

四年生は十二月十三日に課題研究発表会を行いました。三年後期から行ってきた研究の最終的な発表です。それぞれプレゼンテーションや質問に対する応答などを一生懸命行う中で四年間の成長を感じました。また、後期に予定されていた臨地実習や教育実習等も無事に終了し国家試験対策に集中できる環境となりました。現在は二月の最終模擬試験と三月二十二日の本番に向けて頑張っている様子が見られます。就職については、一月での内定率が八〇％と前年度を上回っています。三月に入ってからも内定することはよくありますので今後も内定者が増えることが予想されます。卒業に向けて、教員一同サポートしていきたいと思いますので保護者のみなさまもどうか温かく、時には厳しく支援してあげてください。

大学生活美術学科　1年

一年次は、学業以外でも活発な活動が見られ、本学の教員と学生が一緒に地域の方々と共に「ワクワク一〇〇ぷろじぇくと」を展開しています。

その一つとして、毎年開催されている泉区民の日頃の芸術文化活動の成果を発表する文化祭の企画運営スタッフとして、全員がボランティアとして参加し、作品展示・消しゴム判子のワークショップ、参加型ガラスアート等を行い、多くの来場者に好評をいただきました。その後、地域の方々との報告会を行い、学生達は地域と大学との連携の重要性を強く感じ来年度に向けて動き出しています。更にこれらの経験をもとに学生食堂のガラス二面に季節を彩る「ガラスアート」を展開しています。今後も学生達の活動の支援を担任として見守っていきたいと思います。

大学生活美術学科　2年

生活美術学科二年次は、後期の活動として勉学に制作に充実した活動を行いました。九月には児童館で七人の学生が、レザークラフト等の制作イベントを行いました。また八木山動物公園写生大会にボランティアとして四名の学生が参加しました。大学祭では、コンクールで各人が力作を発表し、画廊企画の賞に入った学生もいました。ファッションショーや各所属するサークルでの発表もあり、二月に開催されたゼミナール展では、所属ゼミの展示で良い作品を発表しました。学生のがんばりに応援よろしくお願いします。

大学生活美術学科　3年

字数制限が許す限り、嬉しいニュースを列挙します。

相澤郁恵さんが漫画家としての第一歩を踏み出しました。彼女の「モディリアーニにお願い」がビッグコミック増刊号に連載中です。舞台は、本学に少し似ている田舎町の大学です。是非ご覧下さい。今、まさに個展の準備に追われているのが、H二十五大美コン最優秀賞受賞者の櫻井園子さんです。遂に仙台圏を飛び出し、東京（新宿）に進出した学生が現れました。H二十六大美コン最優秀賞も同期の葛西佑美さんが受賞しました。彼女も個展を計画しています。

二学年終了時点で、卒業に要する単位のほとんどを取得してしまった学生が多くいたため、中だるみを心配しましたが、二年間の「貯金」で得たこの自由な二年間を有効に活用した学生達が朗報を届けてくれるようになりました。この勢いがクラス全体に波及するこの後の一年となることを期待しています。

大学生活美術学科　4年

大学四年間の学修の集大成とも言うべき卒業研究の提出を受け、二月六日～十二日の期間せんだいメディアテーク五階ギャラリーを利用して、第四十七回の卒業制作展が開催されました。来場者は千三百名を数え、展示の様子は新聞報道等で取り上げられ、四月から社会へ羽ばたく学生達には、大きな励みになったことと思います。

卒業後の進路は、昨今の美術系の就職難の煽りを受けて、他学科と比べると低調な就職率ではありますが、昨年に比べるとポイントは上昇しています。また、少数ですが大学での研究を更に深化させるべく、専門の研究所や本学の研究生を希望する者も見受けられます。いずれにしても本学部のディプロマ・ポリシーに謳われている「地域の暮らしをデザインする力」を生かして自律的に活動し、社会にとって有為な人材として活躍することを念願しています。

短大食物栄養学専攻　1年

栄養士免許取得を志に入学してから一年が過ぎようとしています。二年という短期間で免許を取得するためのカリキュラムに一生懸命取り組んでいます。先日、本専攻二年間の集大成である先輩方の校外実習報告会を聴講し、今後の課題を具体的に認識したようです。新学期を迎えると校外実習や就職活動など、益々現実味を帯びた生活が待っています。それに向けて、学年末休暇は、一年間の復習はもとより、社会人としての基本的な礼儀を意識して送って欲しいと思います。

短大食物栄養学専攻　2年

食物栄養学専攻二年生は、十一月下旬には予定されていた校外実習を全て終え、それぞれ栄養士としての実務を経験してきました。その中では、実際の給食施設における大量調理や栄養指導、喫食者とのコミュニケーション等、学校では体験しきれない多くのことを学び、更に成長した姿を見ることができました。

後期には、進学準備や就職活動も活発化してきました。悩みや不安のある中、自分の目標を真剣に考え、前進していく姿は頼もしくも見えました。四月からは、それぞれ異なる道に進んでいくことになりますが、二年間で頑張って詰め込んだ知識と経験、そして自分に自信をもって進んでください。

短大子ども生活専攻　1年

一年次後期は、短大の大きなイベントである大学祭でのファンタジーランドの準備で慌しく始まりました。過去に例を見ない取り組みの遅さに、当初は子ども生活専攻が立ち上がって十年続いていたこの行事ができないのではと危惧するほどでありましたが、なんとか無事当日を迎えることができました。学生も充実感・達成感を味わい、仲間と力を合わせることの喜びを感じていたようでした。

さて、一つ残念な事は、後期に入って健康管理が不十分なのか、授業への集中力がなくなってきたのか、遅刻・欠席者が大変多かったという事と、全体的に自分から何かをやろうという意欲に欠けていたように感じられたことです。来年度は二年次で十週間の本実習の年です。是非お子様の気力・体力の充実を図っていただきますようご家庭でも引き続きご支援よろしくお願い申し上げます。

短大子ども生活専攻　2年

子ども生活専攻二年生は、後期に入ってからすぐの十月初めから、二か月にわたる幼稚園教育実習を経験しました。未来の保育者として二か月頑張って、学校に戻ってきた皆の顔は人間として一回り大きく成長したように感じられます。その後は、就職活動と授業で忙しく大学生活を送っていましたが、次々と就職も決まり、社会人としての一歩を踏み出そうとしています。教育や保育は人を育てる大切な仕事です。子どもたちを健やかに育むと共に、自らも志を抱いて力強く歩を進めていってくれるよう心から願うところです。

私の研究

大学家政学科 准教授

植松 公威

専門分野：教授学習心理学
主な担当科目：教育心理学、心理学、教育方法論

私は「教える」、「学ぶ」という活動に関する心理学の研究に取り組んでいます。研究テーマは以下の3つです。

① 「ピア・プレッシャーによってル・バーへの確信度を意図的に高めることが概念変容に及ぼす効果」

誤った、または不完全な一般的知識（ル・バー）をもっていると、正しい情報を教授されたときに驚きが喚起されます。しかし、ル・バーへの確信度が低い状態だと、驚きが弱くインパクトに欠けてしまいます。そこで仲間からの圧力（ピア・プレッシャー）を利用して、あえてル・バーを所持させ、確信度を高めることによって驚きが高まり、ル・バーの修正が促進されるのではないかと考えています。

② 「ル・バーに基づく判断のリバウンド抑制に及ぼす『範囲画定型ルール』提示の効果」

私たちは生活の中で経験を通してル・バーを形成します。ル・バーに基づく反応は、それと対立する知識の教授によって一旦、減退しますが、教授場面から離れ、日常生活の中での経験をくり返すことによって、再度、復活（リバウンド）する可能性があります。しかし、日常生活での経験と対立しない、経験の妥当性を条件付きで認める法則を提示した場合にはリバウンドが抑制されると考えられます。

③「薬物に関する規範意識の高まりに及ぼす認知療法の効果」

薬物乱用防止教育には、薬物の危険性、有害性を教授する教育と人生の歩み方（ライフスキル）に焦点を当てた教育があります。前者には、危険性、有害性だけを教授する「一面（片面）提示」と、「快楽が得られる」などのプラス面も一緒に教授する「二面（両面）提示」の方法があります。後者には例えば認知療法が該当し、前者の「脅しの教育」よりも有効である可能性があります。認知療法とは、悩みや問題を抱えているときの否定的な事実だけを狭く、極端に見るとらえ方を改善し、肯定的な事実にも目を向けさせることを目指した心理療法です。

大学家政学科 講師

半澤 真喜子

専門分野：栄養学
主な担当科目：給食管理学、給食経営学、給食管理実習、臨地実習

私は管理栄養士として陸上自衛隊に35年間勤務し、ご縁があり本大学に勤務させていただいております。陸上自衛隊の給食は昭和29年の自衛隊発足以来、隊員に現物給与の一環として提供されていますが、内容については公開されていない部分が殆どです。関係する資料は現在廃版となっており、文献は少ないのが現状です。「給食経営管理」のテキストに施設の特質、特性、概要、給食の目的、区分、目標、栄養摂取の基準等の記載はありますが、言葉、数字は現在の給食からは程遠いものでありました。あるテキストの自衛隊を通した栄養教育の方法について考察し、提案をする項目に「対象者の中には、10～20歳代の若者が多く、積極的に健康管理を実践する意欲をもたない人も少なくない。自衛隊に適した栄養教育をどのように展開していくことが望ましいのかを検討し、提案することが必要である。」と書かれていました。現在、大学で勤務させていただいている立場から、陸上自衛隊の給食についての歴史、変遷、発足当時に栄養士として勤務されていた先輩の方々から、食事の内容、時代に伴い隊員の食に関する関心の変化、給食に対する思いなどを直接お聞きしながらまとめの仕事をしています。

又、「医療・福祉分野における給食経営の課題」についても取組を始めました。「医療・福祉分野」の課題とすると、山ほどの課題が挙げられます。現在および将来にむけて、医療・福祉分野には山ほどの難題が待ち受けていることを、多くの人が実感しているところです。その中で食に関わることは、医療・福祉を支える中心的役割の一端を担っていると考えます。給食の取り組むべき課題として、多くの利用者に食に関する質の高いサービス提供を可能とするためのシステムの構築があります。それは、一方向ではなく、多面的な取り組みが必要となることから、違った立場で仕事をしている方々と給食経営管理の課題についての情報を共有しながら、実務活動・研究に邁進しているところです。

大学生活美術学科 講師

大堀 恵子

専門分野：版画
主な担当科目：版画、色彩学

私の教育・研究活動は、版画（シルクスクリーン）技法を主とした制作をとおして、平面における直接的表現と間接的表現の均衡を図り、基礎的配色論をもとに、魅力ある色面空間を展開することにあります。これらを研究目標に自己研鑽を深め作品を制作・発表しています。

作品のテーマは、四季折々の水面に映し出された雨の表情（春雨はるさめ、梅雨つゆ、秋雨あきさめ、時雨しぐれなど）の一瞬の制止した風景をイメージして、ロウによる跡（The Locus of Rains）を利用し抽象的な版にしていきます。そして、支持体は和紙の厚さの数種類にシルクスクリーン技法で印刷し、あえて混色をせずに和紙を幾層にも貼り重ね、色を閉じこめるように季節の移ろいの微妙な変化を表現しています。

作品の中で使用している和紙との出会いは、2004年に公募があった高知国際版画トリエンナーレ展に出品し、受賞式に出席の時に土佐典具帖紙と出会ったことから現在に至る表現になっています。

土佐典具帖紙（とさてんぐじょうし）とは、楮靭皮のアクを抜き去り繊維の絡みだけで漉いた世界一薄い紙と言われ、「カゲロウの羽」のように薄くて丈夫と称賛される和紙です。戦前にはタイプライター原紙として盛んに輸出され、又、昭和30年代以降は機械漉の典具帖紙の普及に押される一方で、手漉き和紙は貼り絵用紙、文化財保存修理などのわずかな需要に支えられながら伝統技術として伝承されています。今後は、貴重な伝統工芸品として引き継がれていくことを願います。

日本の自然あふれる文化、風土からうまれた和紙という素材と「版」でしか手に入らない表現に今後とも真正面から向き合っていきたいと思います。

短大生活文化学科 教授

齋藤 紀行

専門分野：微生物学、食品衛生学
主な担当科目：微生物学、食品衛生学、食品衛生学実験

私は、有機化合物のアズレン誘導体の合成、放線菌が出す抗生物質の分離・構造決定を行いました。新規抗生物質はマウスの実験系で抗真菌活性、抗ウイルス活性、抗がん活性を示したことから、微生物学に大いに興味を持ちその道に進みました。微生物には多くの種類が存在するので、それぞれを培養するだけでも大変なことでしたが、微生物の培養・分離法、病原微生物による感染実験と予防・治療法を学びました。

宮城県職員として、医療従事者の教育、衛生研究所での研究業務に携わりました。衛生研究所では、主に集団食中毒・特異感染症の原因微生物調査、食品添加物の調査とそれらに関する研究を行い、食中毒・感染症防止活動に役立てて参りました。

原因微生物の分離・同定法は微生物の性状試験・遺伝子解析法を駆使して行いますが、微生物は変異し易いため、変異した微生物に遭遇することが度々あります。そのような場合、検査者の力量が問われます。様々な文献等を参考に病原遺伝子の検索、新たな性状の確認など、謎解きです。

私は、小学校の時より推理小説が好きで、江戸川乱歩の小林少年、コナン・ドイルのシャーロックホームズ、アガサ・クリスティのエルキュール・ポアロにあこがれ、小説の謎を解決しようと熟読したものです。食中毒での原因究明はまさにこれで、楽しみながら仕事をしておりましたが、迅速性が要求される行政検査の場合は、苦労したことも多々ありました。

このような経験を通して、科学では常に疑問を持ち、一つ一つ謎を解く気持ちを持つことが大切であることを、学びました。

このことを、講義を通して学生に伝えていけたら、と思っております。

四谷シモン氏講演会

平成二十六年九月二十五日、四谷シモン氏をお迎えし、大学特別講演会を開催いたしました。（氏は平成二十五年の晩秋に講演をして頂く予定だったのですが、急病のため延期となっておりました。）

彼の人形への想いを、幼少期に関わった人形の事から、どの様に現在の球体関節人形に至ったか迄等を話して頂きました。とりわけ十代後半から二十代にかけては様々な当時一世を風靡したアーティストや文化人に出会い大きな影響を受けられたお話は、観客の関心を惹いたようでした。中でも仏文学者の故澁澤龍彦氏には特に想い入れが強く、精神の支えになられていたようでした。

婦人雑誌に記載されていた澁澤氏のコラムにハンスベルメールの球体関節作品を見て、強い衝撃を受け、四谷氏の大きな転換期となりました。

他にも、金子國義、唐十郎、麿赤児、篠山紀信等現在まで交流が続いていることが、今なお第一線でのご活躍を続けておられる原動力と感じました。今後、ますますのご活躍を祈念いたします。

公開講座「お正月あそび」

平成二十七年一月六日（火）東北生活文化大学・短期大学部平成二十六年度公開講座「お正月あそび」を体育館で開催しました。早いもので、短期大学部に子ども生活専攻を創設してから来年度は十年を迎えます。そこで、子ども生活専攻創設十周年記念行事の一環として、学生たち、子ども生活専攻の教員全員の協力の下、この公開講座を実施しました。当日は、幼児から小学生（一歳から十歳）二十六名、ご家族の方々十五組が参加、午前中二時間、学生たちが作ったペープサートによる「十二支の話」を見たり、凧作りやこま作りをした後、少し雪の残る校庭で思いっきり凧揚げをしたり、こま回しに挑戦したり、昔ながらの正月のあそびを家族の方々、学生、教員などみんなと楽しみました。体育館いっぱいに飾った、学生たちが紙などで作った鏡餅や餅花のディスプレイも好評で、小さなお子さんに説明するお父さんやお母さんの姿はとても微笑ましいものでした。

国際交流事業参加レポート「イギリスでの生活」

家政学科健康栄養学専攻二年生、留守恵黎那さんがみやぎ蔵王三源郷推進協議会（村田町・蔵王町・川崎町）主催の英国ウェールズ州フリントシャー県との国際交流事業に応募し、見事、合格いたしました。

そこで本学国際交流委員会から、この交流事業に参加する留守さんに奨学金の支給を行いましたが、留守さんからレポートが届いたので、ご紹介いたします。

「イギリスでの生活」

川崎町、村田町、蔵王町の三町合同で行っているイギリス友好親善派遣事業があります。各町二人、高校生から大学生を対象に募集していました。その事業に応募し、各町二人、計六人（大学生二人、高校生五人）で八月一日～八月十二日まで、イギリス、ウェールズ州へ行ってきました。ウェールズは自然豊かで空気もきれいなところでした。

特に印象に残っていることは、ロンドン観光です。シャーロック・ホームズの家を訪れたり、バスに乗ってビックベン、ロンドンアイ、バッキンガム宮殿など観光スポットを見てまわったりしました。テレビでしか見たことのなかった風景を実際に見ることができて興奮しっぱなしでした。

アメリカ英語とイギリス英語では異なるところもありますし、他にもみんなと仲良くなれるかなど、不安なことがたくさんありました。しかし、みんなとてもフレンドリーで英語ができない私に、分かりやすくゆっくり話してくれたので不安もなくなりました。約二週間とても楽しく過ごしました。また行きたいと思っています。

健康栄養学専攻 二年 留守恵黎那

事務職員紹介

学生募集担当課長
遠藤 保博

現在の主な職務は、広報・学生募集委員会の総括と学生募集を中心にオープンキャンパスの年間計画、大学案内の作成、高校訪問、進学相談会、高校内相談会等の企画と運営、出前授業、学校見学の受け入れと対応、各受験業者との折衝などです。私自身広報と学生募集は、入学者確保のために重要な仕事であると認識していますので、接する高校生や保護者、高校の進路指導部の先生方には丁寧な説明とより良いコミュニケーションの形成を心掛けています。

PHOTO ALBUM
（平成26年度後期）

夏期高校生のためのデッサンセミナー

8月2日から5日の4日間開催。さらに今年3月26日、27日には春期開催します。1日6時間集中的に取り組むため、初心者でもデッサン力を身につけることができます。

GAMA ROCK FES 2014

9月20日、塩釜においてGAMA ROCK FES開催。服飾文化専攻が、「GAMA ROCK FLAG」の製作協力を行い、会場までの道を彩りました。

学生食堂が変わりました

主食、小鉢（小・中・大）、主菜などから、自由に組み合わせを選んで食べることができるようになりました。「ランチをコーディネートしよう!」

構内清掃

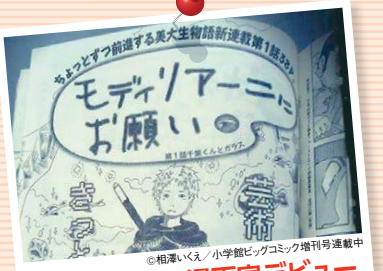
本学では年2回、定期的に学生と教職員で実施しています。

大学祭

10月25日、26日開催。各種展示、様々なステージイベントが行われ、盛り上がりました。皆様、ご来場ありがとうございました。

ファッションショー

企画・演出・構成から衣装デザイン、モデルまですべて学生によるショー。今年のテーマは「交錯」。一人ひとりの力が融合し、感動的なステージに。



©相澤いくえ／小学館ビッグコミック増刊号連載中

相澤郁恵さん漫画家デビュー

生活美術学科3年生の相澤郁恵さんがこの度、漫画家デビューしました。「ビッグコミック増刊号」に「モディリアーニにお願い」というタイトルで連載されています。

X'mas Party☆

防寒対策として、学生食堂前のコアをテントブースの様に、シートで被い、中ではミネストローネやおでんなど温かい食べ物も振る舞われ、一足早いクリスマスを楽しみました。

平成26年度成人祝賀行事 ～情熱のフラメンコ～

1月24日、本学100周年記念ホールにおいて、平成26年度成人祝賀行事「情熱のフラメンコ」を開催しました。

就職支援センターから

◎保護者の就職支援

本学の大部分の学生にとっては、大学や短大が最後の教育機関です。つまり、小学校から14年間または16年間学んで身につけてきたさまざまな知識や技能を発揮し、卒業後は実社会で働いて収入を得るとともに、社会の発展に貢献することになります。学生にとって学校から社会に出て行くことは、約20年の人生で最大の飛躍だと思います。学生たちのこの飛躍に対して、保護者の方々の物心両面にわたるご支援を3点記載します。

第一は、「就職活動をやっている?」と、機会を見て声を掛けてください。本学学生は就職活動への取り組みが遅く、そのために会社の選択幅が狭くなり、結局は希望に合わない会社なので就職しないままで卒業してしまうという学生がいます。保護者からたまに声を掛けていただくだけで、学生は背中を押されて前に一歩進み出すことができます。

第二は、就職活動への経済的な支援です。筆記試験での基礎学力を身につけるには、問題集を買って毎日着実に勉強していく以外に方法はありません。問題集購入のための援助をお願いします。また、就職活動ではリクルートスーツが必要になります。暑い夏の時期の就職活動では2着必要になるかもしれません。さらに、面接試験では東京に行かなければならない場合もあります。学生は高速バスを利用するなど余分な支出を抑えていますが、やはり学生の負担は大きいものがあります。ぜひとも経済的な支援をお願いします。

第三に、保護者と学生とが事前に十分に意見交換をして、共通理解の上で就職活動を進めてください。残念ながら、保護者の理解が得られず、採用内定を辞退する学生が毎年います。内定通知に承諾書を出してからの辞退は、本来は許されないことです。宮城県内に限るのか、県外でもいいのか。職種は事務に限るのか、営業でもいいのか。これらのことを学生と話し合ってバックアップしてください。

東北生活文化大学
東北生活文化大学短期大学部

このロゴマークは、本学の理念・目標を表現し、広く学内外にアピールするために、大学創立50周年を契機に作成し、平成22年4月1日に制定されました。東北生活文化大学・同短期大学部の英語表記の頭文字「TSB」をモチーフにし、人を結び繋ぐことがイメージされています。「広報TSB」も、保護者と大学とを結ぶ懸け橋となることを願って命名しました。

※ブロンズ像「のぞみ」…平成26年6月大学3号館東側エントランスに設置。この像は勾当台公園にあるものと同じ作品です。

広報TSB 第6号
［ 発行 ］ 平成27年（2015年） 3月1日
東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部
〒981-8585 仙台市泉区虹の丘1丁目18番地の2
TEL 022-272-7520　FAX 022-301-5602
ホームページ　http://www.mishima.ac.jp/
Facebook　https://www.facebook.com/mishima.tsb
Twitter　https://twitter.com/mishima_tsb